

令和7年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書
【小名浜白百合幼稚園】

当幼稚園における令和7年度事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do)／ 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭教育を補うことを保育の目的とする。 なお、集団生活の場故、インフルエンザ、コロナウイルス等の感染症対策については、引き続き園児、保護者、職員の安心安全を確保すべく、感染・拡散防止対策に努める。	本園は子どもとの生活の中で「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる心の教育を目標とし、園児一人ひとりが安心できる居場所となるよう、寄り添い認める保育をし、更に生活習慣を身につけさせると共に集団での遊びが充実する保育を行った。 教育目標である心の教育を達成するため、職員間での共通理解を深める努力をした。 例年になく早期にインフルエンザの流行が起き、本園も数日間の学級閉鎖を余儀なくされる中、可能な限り園児、職員を感染症等から守るため、感染防止策として下記の通り実施した。 ●基本的習慣(検温、手指消毒、必要に応じたマスクの着用、備品・玩具等の消毒作業)を継続し、安全安心を重視して園児の健康管理に努めた ●様々な感染症ごとの対処等について共通理解を重ね連携し、職員室に情報を集約した ●園児の日々の生活、遊び、行事等の見直しを繰り返し行い、職員の知恵と工夫により、安心安全の中で仲間と充実した園生活を過ごせるよう努めた	令和8年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めて行く。

年間行事について	積み重ねと継続を大切に、各種行事を挙行する。 予定の詳細については、各幼稚園の年間行事予定表を作成及び公表する。	別紙、年間行事予定表に沿って行事を行い、保護者からも子どもたちの成長に対し評価をいただいた。 ただし運動会については 9 月を予定していたが、災害級の猛暑・残暑となったことから実施時期を約 1 ヶ月遅らせ、結果として作品展と運動会の日程を入れ替える形となった。屋外活動が制限される時期に園舎内において存分に物造りに取り組める環境をつくり、9 月に作品展を実施した。園児、職員の命を守るための変更であったため、保護者からも理解を得られた。 また振替休園を設けず幼稚園を運営するべく、運動会、クリスマスお遊戯会を平日に実施した。各行事の保護者手伝いは極力なくしており、職員の手で行事を作り上げることが出来た。 昨年度から保護者の声に応え、始業式の公立小学校同日実施、及び預かり保育実施日の増設を行っており、日常保育の中でも保護者の就労支援につながるような保育を提供することが出来た。	共働き世帯が増えていることから、保護者の来園については参観や観覧を主とし、リモート観覧も積極的に取り入れていき、行事手伝い等の来園は極力なくすよう今後も継続する。 職員間の連携「報連相」が、行事だけでなく日常保育の現場レベルにおいても重要であることを職員一人ひとりが理解し、実感できるよう、職員教育にも力を入れたい。 運動会について、今後も酷暑が続く予想であるため、10 月の実施が望ましい。また、平日に実施したが、保護者から「家族で応援したい」との声が多くあったことから、令和 8 年度は日曜日の実施とする。
新規事業について	① 屋上防水修繕工事	一時避難所である屋上について、経年劣化による浸水の恐れがあったため、安全安心のため防水工事を実施した。	災害時の園児の安心安全を担保し、人的被害が可能な限りなくなるよう、今後も環境整備に努めたい。
	② クリスマスツリー設置	園児、保護者及び地域の皆様のへの光として園庭に設置した。	今後も地域貢献また園児募集の一環としても継続し、カトリック園としてクリスマスを大切にしていきたい。

新規事業 について	③ 東側フェンス新設工事	大通りから園庭への侵入や声掛け、撮影等を防止するといった危機管理の観点から、園児の安心安全を確保できるよう工事を実施した。	保護者の要望に応えることが出来、園児の園生活が安全に守られており、今後も環境整備に努めたい。
	④ 職員ユニフォーム(アシックスジャージ)購入	行事等の際の職員のユニフォーム支給を完備した。全員が同一ユニフォームを着用することで見栄えも良く、園外での活動でも白百合幼稚園職員としての一体感が見られた。	通常時ではなく行事用として着用し、白百合幼稚園職員としての結束感を持って大切に使用したい。
	⑤ 折り畳み式アルミステージ購入	屋外でも簡易に使用できるアルミステージを導入することで、「子ども一人ひとりが主役」の保育の質を後押しし、また出し入れの利便性も向上した。	限られた人員で道具の出し入れが必要な場面で積極的に活用し、保育に活かしたい。
	⑥ FRP 製遊具修復工事	予算を大きく上回る概算となってしまったため、ふくしまフレーベルへの発注は見送った。アンパンマン人形については令和6年度保護者会との協議により、補修ではなく新品を卒園記念品として贈っていただくことが出来た。 FRP 製遊具の塗装については別事業者(大綱建設)より安価に実施してくれるとの申し出があり、また令和7年度保護者会より特別寄付を受けることが出来たため、大綱建設へ補修工事を発注した。	園児の大好きなアンパンマンが綺麗に新しくなったことで、とても喜ぶ姿が見られた。 景観を整えることは園児募集の一助となるため、今後も環境整備・保全に努めていきたい。
	⑦ ノートパソコン購入	管理職(教務主任、主任)が使用し、業務効率化を図れるようにした。担任と管理職が各々パソコンを所持することで作業が効率的になったと実感している。	今後も、ICT システム導入も含めて更なる労働環境改善を目指したい。

職員の 質向上に ついて (研修等への 参加含)	園内外の研修に参加し、保育の質の向上に力を注ぐ。 法人全体での研修会に全職員で参加する。 カトリック研修に参加し、心の糧を養う。 特別支援を要する幼児の保育向上にも力を注ぐ。 小動物や植物、野菜など自然とのふれあい事業を通し、命の大切さ、小動物との関わり方などを学ぶ。 避難訓練、防災訓練、交通安全教室を通し、危機管理に係る知識を深める。	研修を通して職員間の共通理解を深め、保育の質の向上を図ることが出来た。 カトリック幼稚園として一番大切にしている心の教育について、正職員全員で学ぶことが出来た。 様々な研修を受けることで、支援を要する園児は勿論、全ての園児一人ひとりに向き合い、丁寧な保育をすることが出来た。 自然との触れ合いが保育の中にたくさんあり、命の大切さなどを園児と共に考え、学び合うことが出来た。 ICT システム活用の一歩として、管理職と主担任がパソコンやルクミーシステムの基本操作や活用方法、保護者からのアプリの見え方等を一から学び、保護者とのやり取りをシミュレーションするなど、職員が一体となって取り組むことが出来、結果としてルクミーシステムを効果的に活用できるようになった。 職員全体として、「報連相」の在り方をもう一度理解し共通の認識とすること、縦の流れや横の繋がりなど組織としてあるべき姿を想像することについて、より一層働きかけを強くする必要がある。	令和8年度も新採用を迎え、引き続き経験の浅い職員が多くいる体制での教育提供となる。 職員一人ひとりが、自分が出来ること、すべきことを考え自覚して自己研鑽できるよう、研修の機会を積極的に設け、また「報連相」を円滑に当たり前に行うことが出来るよう、職員間のコミュニケーションの重要性を終礼等で周知したい。
---	---	---	--

2. 総括

- 職員が「何を大切にするか」を考え、思い、共通理解し実践している。保護者は園と職員を信頼してくださり、理解、協力してくださっている。この信頼関係があつてこそ、園運営、保育・行事に関すること、全てが予定通り行えた要因だと思う。

- 発達障がい児や気になる部分がある園児を受入れ、保護者と連携を取りながら個々に寄り添った保育を実行してきた。一部の療育施設との連携も取れ、当該園児の特性や寄り添い方等について共通認識を深めることも出来た。

健常児についても同様に、心身の定型発達以上に、違いを理解しようしたり、認め合い、助け合おうとしたりする姿が見られ、カトリック幼稚園としての教育目標「感動する心」「感謝する心」「祈る心」「共に生きる力」が芽生え育ってきていることを実感し、手を合わせ感謝した。

- 各クラスのパソコン配備と管理職への1台ずつ配備が完全となり、今後も作業効率化と個々の更なるスキルアップを目指し、適切にICTを取り入れて、更なる労働環境改善に積極的に尽力したい。

- 本年度の保護者アンケートでは、園からの情報発信の方法が電子媒体でも紙媒体でも種類が多くわかりづらいといった声が散見された。前年度多かった要望として連絡帳や配布物の電子化が挙げられ、本年度はルクミーによる連絡帳やお知らせ配布のウエイトを増やしてきたところであるが、特に大きな行事や学年ごとの細かなお知らせについてはまだ紙媒体での配布となっている。今後、ルクミーシステムの活用幅を広げ、見やすい・わかりやすい情報発信を工夫していきたい。

また、長期休みの預かり保育で給食を注文できるようにしてほしいとの声も多くあったため、冬休みより、希望者は注文できるように体制を作った。概ね好評を得ており、利用者の二分の一～三分の一程度の園児が注文をしていた。今後も保護者支援の一環となるものがあれば積極的に検討し導入していきたい。

- 事務局により、補助金手続や、様々な状況における就労体制の構築・整備、及び園が抱える諸問題等を解決していただいていることにより、混乱なく園運営を行うことが出来た。

- 少子化が止まらない社会情勢の中、保護者支援・就労支援の必要性が強く求められている。「選ばれる幼稚園」であるためには、保護者支援は大きな要素になる。これまで以上に情報発信を行い、保護者のニーズに応えながら本園の教育理念を丁寧に伝えていく努力をしなければならないと考える。

同時に、昨今の「保護者支援」とは言葉通り保護者への精神的な支援を意味し、園児と同様に配慮が必要な方が増えていることも現状である。職員のスキルによっては対応に苦慮するケースもあり、園全体として慎重に関わらなければならない事案であることも踏まえておきたい。

日々の保育や行事を通してどのように園児たちに向き合い、卒園までにどれだけのものを子どもたちに手渡そうとしているかを周知するため、ホームページの更新は増やしているが、保護者に園児の様子を知ってもらおうとともに外部の方にも本園を周知できるよう努め、情報発信の手段として今後も力を入れていきたい。